

自給たい肥を使った循環型農業をやってみたい

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



阿部 春華
(雄勝郡羽後町)

経営概況

経営面積 | 田: 2.2ha
経営形態 | 繁殖牛経営
飼養頭数 | 繁殖和牛約 60 頭、子牛年間約 40 頭
施設 | 牛舎2棟
作物 | 牧草
労働力 | 2名、臨時雇用あり
販売先 | JA 主体

父親の急逝により、大学を辞めて母親と共に家業の畜産に取り組む女性があります。就農後、人工授精師や大型特殊免許の資格を取得し、種付けや牧草の収穫を自ら行い、繁殖牛経営に取り組み今年で3年目を迎えました。将来は、家族みんなで循環型農業での野菜栽培や飼養頭数を増やし、規模拡大したいという夢を持っています。

▶ きっかけ

阿部さんは、中学3年生の時、我が家に新しい牛舎が整備され、畜産に取り組む両親の姿を見て自分も将来携わりたいと思い、普通高校卒業後に北海道の畜産系の大学に進学しました。2年生となり、専門的に畜産の勉強が始まろうとした矢先に父親が亡くなり、家業の畜産を母親1人でするのは大変だろうと思い、この年に大学を辞めて就農しました。



●両親の働く姿を見ていた牛舎

就農1年目は、畜産についての知識がほとんどなく、分からないことばかりで、これまで全ての種付け作業を人工授精師の母親が行っていたこともあり、人工授精師を目指して県の講習会で学び、資格を取得しました。

▶ 取組

2年目からは、繁殖牛の種付けから分娩を自分が担当し、子牛の育成は母親が行い、作業を分担して取り組んでいます。特に受胎率を上げるため太らせないことや、発情を見逃さないように、尾根部にマーカで印を付けて牛をよく観察しています。



●牛をよく観察することで健康状態が分かります

また、大型特殊免許を取得し、牧草の収穫などは自分が行っていますが、牧草を栽培している水田は小区画であり、畦畔が多いため大型機械での作業は大変です。

振興局のアドバイスで、秋田県の「コロナ関連緊急対策事業」や「若い担い手の和牛力向上支援事業」を活用し、牧草をほぐす機械や給飼機を導入

し、家畜保健衛生所からの繁殖検診巡回指導などの支援もあり、作業が楽になりました。

▶ これから

現在は、近隣農家からたい肥と交換で稲わらを頂いていますが、将来は自給稲わら(減農薬等の水稻栽培)を牛に給餌し、そのたい肥を使った循環型農業に取り組み、アスパラガスなどの野菜を栽培してみたいと思っています。

畜産は飼料高騰や子牛価格の低迷など大変なことが多くなってきましたが、農業系の学校に進学している妹も畜産に携わりたいと話していますので、家族みんなで取り組み、今の倍ぐらいの頭数に規模拡大したいという夢があります。



●親子二人三脚でガンバっています！！

